

## 令和5年度 学校総合評価

### 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の役割は、不登校経験者の学び直し、障害や困難を抱える生徒への特別な支援、外国籍等の生徒への支援など多岐にわたっている。そうした生徒一人一人に対して、先進的な教育手法による基礎学力の保証はもとより、社会で自立して自己実現を図る力を育むことが重要となっている。そのため今年度は5つの重点課題に取り組んだ。

- (1) 「学習活動」については、単位修得率は通信科目では上昇したが定時科目で下降したため目標を達成することができなかった。原因の一つとして、退学者(転学者含む)や長欠者が増加したことが考えられる。また、生徒の学習実態については、「学習時間調査」や面談・個別指導の実施により把握した。家庭学習時間の平均は昨年と同程度であったが、学習時間が0分の生徒数は減少した。生徒の実態を踏まえた授業の工夫や進路目標の明確化による内発的な動機付け等、生徒の主体的学習活動を促す取り組みを継続する必要がある。
- (2) 「学校生活」については、昨年度に引き続き「あいさつ」の定着と遅刻の防止について取り組んだ。昨年度から微増はしたが目標値に到達せず、指導を継続する必要がある。生徒が自らの健康について、適切な知識や情報を収集し、課題意識をもって生活改善に取り組む力を育むため、生徒向けの研修会や特別活動の充実を図ったが、目標達成には至らなかった。また、教育相談や特別支援教育に関する研修会を実施することで、教員の理解を深めた。今後も生徒が安心して学校生活を送り、自立した人間として他者と共によりよく生きる力を育むことができる学校づくりに努めたい。
- (3) 「進路支援」については、今年度の目標としていた進路目標達成率 90%以上をクリアするために、受験対策の個別指導に力を入れたが、達成には至らなかった。また1・2年次の生徒には、キャリアパスポートの活用を推進して、計画的・継続的なキャリア教育の実施に努めた結果、約8割以上の生徒が明確な進路目標をもつことができ、目標を達成することができた。生徒の進路希望が多様化してきており、様々な機会に進路情報を提供し、家庭と連携しながら進路選択のミスマッチを防ぐことが求められる。
- (4) 「特別活動」については、どの行事も生徒の満足度は高く、彼らが大きく成長していく一助となっている。生徒一人一人が各行事の企画や運営に積極的に関わられるよう工夫したことが要因であると考えられる。図書の出率については、残念ながら目標値を下回った。生徒の実態として、スマートフォンの過度な使用や、書籍に触れることを避ける傾向があるが、学校関係者から寄せられたご意見も参考にして、読書習慣の定着に取り組みたい。図書室では休憩時間等に静かに自習している者の姿が多くみられ、学校における生徒の大切な居場所となっている。
- (5) 「各種検定試験への取り組み」については、資格取得という成功体験をすることにより専門学科の学習に自信をもち、学習意欲の向上につながっている。ただ、達成目標の設定が実態とそぐわない面も出てきているため、より適切な目標設定とそれを達成するための努力を継続したい。

### 次年度へ向けての課題と方策

本校では、多様な生徒に対応し、授業改善やICT教育の推進、通級指導による個別指導・個別支援、SC・SSWを活用した教育相談等の一層の充実を図り、学習意欲の向上や集団活動への積極的な参加を目指して、生徒一人一人の自己実現に資するよう、教職員間のみならず、保護者・地域・外部機関との連携も深めながら、個に応じたきめ細かい教育を実践していきたい。

# 学校アクションプラン

令和5年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る）</li> <li>・生徒の学習実態の把握</li> </ul>		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安易に授業を休む生徒が見受けられる。</li> <li>・学習意欲が低く、学習習慣が身につけていない生徒がみられる。</li> <li>・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。</li> </ul>		
達成目標	①単位修得率		②「学習時間調査」の実施
	90%以上		2回（前期1回、後期1回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習・生活の手引き」（授業の記録）を生徒一人一人に記録させる。</li> <li>・生徒が自らの授業の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。</li> <li>・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。</li> <li>・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。</li> <li>・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。</li> </ul>		
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得率（前期） 83.4%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期 1回、後期 1回</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接週間を4月に設定し、担任と生徒との面談時間を確保した。</li> <li>・新学習指導要領の教科に関しては、3観点での評価を通して生徒は学習の振り返りができた。</li> <li>・受講ガイダンス等を通して、生徒が単位修得について考える機会をもった。</li> </ul>		
評 価	C	昨年度同期と比較すると2.8%減少した。	B 昨年度同期と比較すると、0時間の生徒数が減少したため、全体の平均学習時間は5分程度増加している。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方は時間をかけて丁寧に生徒たちを指導している。</li> <li>・挨拶や遅刻等の生活習慣の改善が学習面にも良い影響を及ぼすのではないかと。</li> <li>・知識を身につける学習はもちろん大切だが、体験活動や交流活動等、高校生の時期にしかできない活動も大切にしていきたい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習・生活の手引き」（授業の記録）の記録を伝えているが、単位修得を通して、自己管理の意義や大切さを身につけさせる工夫がさらに必要である。</li> <li>・単位修得や、進路実現には、家庭での学習が大切であることを繰り返し伝えながら、家庭学習で何が問題となっているのか探る必要がある。</li> </ul>		

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成</li> <li>・ 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより朝起きられない生徒がいる。</li> <li>・ 自ら挨拶を交わすことのできる生徒が少ない。</li> <li>・ 発達障害のある生徒や不登校経験者など、生徒が多様化している。</li> <li>・ 心身の不調から、登校や授業への参加が困難になっている生徒が毎年みられる。</li> <li>・ 自らの生活を振り返り、健康な学校生活を送るために改善しようとする意欲はみられるが、具体的にどのように改善すべきかについての理解に乏しい様子がみられる。</li> <li>・ 心身の健康の保持増進について、生徒が適切な知識を獲得し、主体的に考え生活を改善するための研修会や保健行事、ホームルーム活動等の活躍の場が必要である。</li> </ul>	
達成目標	①学校生活アンケート	②心身の健康について考える特別活動 (委員会、ホームルーム活動) や 研修会の実施と、参加生徒の生活改善
	挨拶・遅刻について 良好またはおおむね良好 70%以上	「生活を見直した」「改善した」70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。</li> <li>・ 生徒指導HRを実施し、挨拶の重要性を認識させるとともに、「あいさつ運動」を通して、挨拶の習慣を身につけさせる。</li> <li>・ 保護者等の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。</li> <li>・ 生徒の多様化と社会の実情に照らし合わせ、生徒の指導方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒保健委員会でアンケートを作成、実施し、今年度の健康教育のテーマを設定する。</li> <li>・ 生徒保健委員会を中心に、テーマに沿った調査、研究を行い、文化祭で発表することで、全校生徒に研究内容を周知し、実際の行動計画を提案する。</li> <li>・ 心身の健康に関する研修会（「健康を考える日」）を実施する。</li> <li>・ 生徒自らが心身の健康課題に取り組むホームルーム活動を提案し、実施に協力する。</li> <li>・ 活動毎に参加生徒の生活改善の状況を調査し、全体の平均が70%以上になることを目指す。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつをする 59.2% (昨年 52.1%)</li> <li>・ 遅刻をしない 64.7% (昨年 61.6%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2日に1回以上「生活を見直した」「改善した」と答えた生徒が60.5%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒校風委員による「あいさつ運動」を13回実施した。</li> <li>・ 各学期初めに、遅刻防止等を目的に校内巡視を行った。</li> <li>・ 生徒指導ホームルームとして、外部講師による挨拶についての講演会を実施し、挨拶の演習を行った。</li> <li>・ 保護者会で長期休業中の生徒心得を配付し高校生としての適切な生活のしかたについて共通理解を図るとともに、家庭での協力を仰いだ。</li> <li>・ 個々の生徒の特性や状況を年次や保健・教育相談部と連携・把握し、指導に活かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒保健委員会で話し合い「スマホと心身の健康について」を今年度のテーマに設定し、調査研究を行った。</li> <li>・ アンケート調査の結果、スマートフォンの使用時間が長く睡眠不足になっている等、インターネット依存の傾向にある生徒が多かった。しかし、そのことについて問題意識や改善意欲のない生徒が多いこともわかった。</li> <li>・ 生徒保健委員会のテーマに連動した研修会を実施した。スマートフォンの長時間使用が心身に与える影響について学び、インターネットと距離をとる方法について専門家から多くのアドバイスをもらうことができた。</li> <li>・ 文化祭ではさらに研究をすすめ、「スマホとの上手な付き合い方プロジェクト」と題した研究発表を行った。使用時間、睡眠、体の健康、心の健康に関わる実践例を全校生徒に紹介し、生徒自身が1週間実行しその効果をふりかえるホームルーム活動を提案して行動変容を促した。</li> </ul>
評 価	C あいさつの定着・遅刻の防止について、ともに目標値に届かなかった。	C 3割以上の生徒が改善に取り組みなかった。健康課題に取り組むホームルーム活動について効果的な提案ができなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あいさつをする」「遅刻をしない」ということは学習面とも連動すると考える。それらの達成度が上がってくると、学習面の良い結果に結び付くのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能登半島地震後の生徒たちの精神的なケアをお願いしたい。</li> <li>・ スマホを使うようになってから子どもたちの根気が続かなくなったようだ。親として「何かを変えなければならない」と思う契機となった。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度内3回の調査から、挨拶については微増しているが、遅刻に関しては減少幅が大きいので、年度内での変化についても注目し、指導していく必要がある。</li> <li>・ 生徒が主体的に自己の課題を認識し、目標を設定・行動していくよう指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が自らの健康について、適切な知識や情報を収集し、課題意識をもって生活改善に取り組む力を育むために、生徒向け研修会や特別活動（委員会活動、ホームルーム活動）の充実を一層はかる必要がある。</li> </ul>

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり</li> <li>・キャリア発達に応じた進路支援と、主体的な進路選択・自己実現の達成</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒がみられる。</li> <li>・進路実現に必要な基礎学力および一般常識、マナーが不足している生徒がみられる。</li> <li>・進路決定に向けて特別な支援を必要とする生徒がみられる。</li> </ul>	
達成目標	①卒業予定者の進路目標達成率	②1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合
	90%以上	1年次50%以上 2年次70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学個別指導、基礎学力向上講座、一般常識コンクール、模擬試験・実力テスト等を計画的に実施することで、進路目標達成に必要な学力を育成する。</li> <li>・学科はもちろん、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けるよう指導する。</li> <li>・進学希望者には奨学金制度の説明を十分に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR活動での指導に加え進路ガイダンス、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、主体的に進路を選択する力を育成するとともに進路意識の高揚をはかる。</li> <li>・キャリアパスポートでポートフォリオを蓄積する習慣をつけさせることで、自己の目標に向かっていくかを振り返りながらキャリア形成を図る。</li> </ul>
達成度	・76%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[1年次] 88%（11月調査）</li> <li>・[2年次] 87%（11月調査）</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務運営委員による指導がより効果的になるよう面接練習スケジュールを工夫した。</li> <li>・JSTと連携し、より良い就職先を検討した。</li> <li>・難関大学を目指す生徒には、担当の教員を配置した上で、目的を共有する生徒でチーム体制を組んで受験対策を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスでは充実した内容とするため、より多くの学部学科の講師を招いての実施とした。</li> <li>・進路ガイダンスやキャリアサポートセミナーでは、企業の担当者を職種ごとに複数名招き、より具体的な情報を得る機会とした。</li> <li>・キャリア実践やインターンシップへの取り組みを通して、進路意識の高揚をはかった。</li> </ul>
評 価	B   達成には至らなかった。	A   目標を達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次対象のインターンシップの実施は、生徒たちの知識と経験を増やす上で有効だ。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解・評価が十分でないままの進路選択が目立った。</li> <li>・志望企業選択の段階で混乱があった。もっと早い時期での見学や体験の機会が必要である。</li> <li>・就職において、卒業が不確定の者は年内の出願を見送った。履修登録も含め、全員が9月に出願できる状況としたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内、校外で連携し、見学や体験の機会を増やし、年次および学校全体で進路意識が高まるような雰囲気作りが不可欠である。</li> <li>・教員に対しても、進路指導の助けになるような情報提供が必要である。</li> </ul>

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかというと達成できていない D: ほとんど達成できなかった

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進</li> <li>・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動や学校行事には、ほとんどの生徒が積極的に参加しており、また募金活動においても協力的である。</li> <li>・コロナ禍のため、例年参加していたボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などはほとんど中止になり、参加できなかった。</li> <li>・図書委員会では中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、参加者が特定の生徒に偏っている。また、図書室を利用する生徒も限られ、読書習慣が確立しているとは言えない。</li> </ul>	
達成目標	①特別活動の企画や運営、ボランティア活動に積極的に関わった生徒の満足度	②在籍生徒一人あたりの貸出冊数
	80%以上	0.5冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。</li> <li>・事後アンケートを実施し、各行事に対する生徒の積極的な関わり度や問題点を把握する。</li> <li>・積極的な関わり度が低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が各行事に積極的に関わられるよう工夫する。</li> <li>・ボランティア活動等の参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。</li> <li>・新着図書PRポスターやポップを制作し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。</li> <li>・図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。</li> <li>・ホームルーム活動の時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。</li> <li>・授業で学校図書館を利用することを通して、読書意欲を喚起し読書力を高める。</li> </ul>
達 成 度	<p style="text-align: right;">満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内生活体験発表大会（7月） 98.7%</li> <li>・スポーツ大会（9月） 94.9%</li> <li>・文化祭（10月） 93.7%</li> <li>・百人一首カルタ大会 2月9日実施予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍生徒1人あたりの貸出冊数 0.38冊</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事において生徒会を中心にできる限り早く実施要項等を示し、各行事の積極的な参加意識を高めた。</li> <li>・生徒会を中心とした毎月のいちご募金は継続して行うことができた。しかし、外部のボランティア活動は例年の2/3程度まで増えてきたが、希望生徒の参加は思っていたよりも少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任の先生方のお薦め本紹介を適宜作成し、廊下に掲示した。</li> <li>・図書委員による購入本選考やお薦め本紹介を企画し、文化祭（図書室）で展示した。</li> <li>・図書だよりを今まで4回発行し、生徒への図書室利用を促した。</li> <li>・昼休みにBGMを流すなど図書室の新たな利用を促した。</li> </ul>
評 価	A 各行事への出席率や満足度は90%を超えており、概ね目標は達成できた。	C 図書を借りていく生徒は少ないが、利用者（雑誌購読や自習者）はいる。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡を盛り上げるイベントへのボランティア協力はありがたく、今後も協力願いたい。</li> <li>・助け合いの大切さを教える意味で、募金等、能登半島地震の被災地への支援ができると良い。</li> <li>・イベント参加、図書の貸し出し等で高岡市男女平等推進センターと連携した活動ができないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本は人生を豊かにする。マンガ等を取り入れ、生徒が図書室に入りたくなるようにすることが大切だ。</li> <li>・SNSで話題となっている本を置くと良い。</li> <li>・「図書館だよりの」は継続してほしい。生徒が本に興味を持つきっかけとなる。</li> <li>・ポイント制を導入して図書館利用率が大きく改善した例もあるので、取組の参考になると良い。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は行事への出席率も満足度も90%を超えており、目標は達成できたと思われる。しかし、ボランティア活動への参加数が少なく、生徒への伝達方法について工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年の減少ではなく、貸出冊数は昨年度から微増ではあるが0.07ポイントUPした。</li> <li>・図書室の環境をもっと魅力あるものにすることで利用者を増やし、貸出冊数の増加につなげたい。</li> </ul>

重点項目	専門教科学習活動の充実と、検定試験合格対策	
重点課題	<p>総合ビジネス科／情報ビジネス科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する生徒に対して専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図る。そのため各種検定試験を活用して効果的な対策を行い、実態に応じた資格取得を目指す。</li> </ul> <p>生活文化科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活産業に関連する基礎的な知識・技能の習得の一環として、被服、食物、保育、情報の各分野の検定試験に取り組み、合格を目指す。また、その過程において主体的に取り組む態度を育む。</li> </ul>	
現 状	<p>総合ビジネス科／情報ビジネス科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の読解力や計算能力など、基礎学力が不足している生徒がみられる。</li> <li>・生徒が多様化しており、一斉の目標を立てることが困難である。</li> </ul> <p>生活文化科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力が低いことや、学習に対する苦手意識が強い生徒がみられる。</li> <li>・生活経験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身につけていない生徒が多い。</li> <li>・検定受験に対する意欲や目的意識を持っていない生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	①総合ビジネス科／情報ビジネス科	②生活文化科
	卒業時の検定2級取得率65%以上	各種検定受験者の合格率 家庭科系（被服・食物・保育）90%以上 商業科系70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。</li> <li>・関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用し、家庭での学習習慣の定着化を図る。</li> <li>・個々の生徒の特性や理解度に応じた資格取得を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等で、検定受験の目的と合格の意義を伝えることで検定への意欲を高める。</li> <li>・個別対応での指導により、個々の生徒が抱える苦手や能力の把握を行う。</li> <li>・学習の苦手意識が強い生徒への、段階的な指導、および、成功体験の積み重ねにより自信を持つような支援を行う。</li> <li>・教員同士、情報共有を行うことにより、生徒が取り組みやすい自主教材を工夫する。</li> </ul>
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業予定者20名 2級合格者16名 取得率80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科系合格率（被・食・保）97.2%</li> <li>・商業科系合格率 61.2%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意欲を引き出す指導</li> <li>・ビジネス科コンテストの実施</li> <li>・生徒の興味関心に応じた個々の指導</li> <li>・希望する生徒に対する補習の実施</li> <li>・個々に応じた教材の活用</li> <li>・ICT教材の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に即した教材（完成見本、段階見本）を作成し視覚、触覚を通して理解を促した。</li> <li>・部分的反復練習、補講および個別指導の実施。</li> <li>・前期不合格者には後期での再受験を促した。</li> <li>・上位の級に積極的に挑戦させた。</li> </ul>
評 価	A 達成目標を上回ることができた	B 家庭科系合格率は目標を上回ったが、商業科系合格率が目標を下回った。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定や学習について多様な生徒を尊重しながら目標を立て指導していることが感じられる。</li> <li>・達成目標の数値のみにとらわれず、多様な生徒が個性を生かしていきいきと活躍できる学校を目指し取り組んでほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の2級取得率の維持</li> <li>・前年度より受験率が下がっている。</li> <li>・授業と取得目標となる検定の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けた生徒の情報や検定の指導法に関する情報共有</li> <li>・次年度は被服検定4級が新教材になる。変更点や重点指導項目等を事前に確認して誰もが指導できるように備える。</li> </ul>